

## 北海道新幹線等新交通体系と観光資源の利活用に関する調査特別委員会（第4回）

令和2年2月10日（月曜日）午前9時57分開会

---

### ○案件

1. 現地調査について
  2. その他
- 

### ○出席委員（9名）

委員長	田村敏郎	副委員長	川村主税
委員	神崎和枝	委員	平松俊一
委員	上野武彦	委員	坂本繁
委員	中川友規	委員	若山雅行
委員	青山金助		

---

### ○欠席委員（0名）

---

### ○委員外議員（0名）

---

### ○出席説明員（2名）

総務部長 鈞谷隆士      総務部政策推進課長 中村雄司

午前9時57分 開会

○田村委員長 皆さんおはようございます。第4回の調査特別委員会をこれから開催するわけでありまして、その前にまず事務局パソコンの持ち込みを…。失礼しました、今日は無いそうなので。それから風邪には十分皆さん気をつけてあれしてください。今日のスケジュールというか、現地調査の行程を事務局のほうからお願いします。

事務局長。

○関口事務局長 それではお配りしてます資料の現地調査の行程表ということで。今日10時5分に役場を出発して、午前中はアイスカルーセル事業と公園広場、トイレ、駐車場のほうを見て、湖畔を視察一周しまして、お昼にここに戻ってくる。

そして、1時からまた出発しまして、道の駅、新幹線の車両所、赤松街道という予定になってございます。資料としまして、道新と函館新聞に出てましたアイスカルーセルの記事を添付してございます。あと、アイスカルーセル事業をやっています、ぐるり道南観光推進協議会の資料としまして、団体の行っている事業を一覧として提供しております。あと、商工のほうから観光振興計画のほうが提出されております。資料については以上でございます。

○田村委員長 今事務局のほうから説明ありましたけれど、これについて何かございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 なしという声で認めます。それでは、この行程表のとおり今日一日回りますので、一つ皆さんよろしくお願いします。

それでは、暫時休憩いたします。

午前10時00分 休憩

午後2時24分 再開

○田村委員長 休憩前に引き続きまして会議を再開したいと思います。午前中、そして現在までの現地調査、本当にご苦労様です。政策推進のほうから情報提供をしたいと、その旨の話がありましたので、この場を借りて受けたいと思いますけれど、よろしいですか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○田村委員長 それではよろしく申し上げます。

政策推進課長。

○中村政策推進課長 それでは、政策推進課のほうから情報提供、今回2点ほどございますが、提供させていただきたいと思っております。

まず1点目でございますけれども、昨日ですね、北國新聞におきまして、石川の白山市におけるビジターセンターの新聞記事がございましたので、こちらのほうを情報提供させていただきます。白山市は、今月7日に白山の総合車両所の近接地で計画するビジターセンターについて、展望できるスペースを設置する方針を示したということになってございます。

JR西日本が設ける車両所の常時見学エリアと、白山が整備するビジターセンターを直結する連絡通路も整備するというところでございます。

白山市は2023年度末のセンター完成を目指しておりまして、来場者に鉄道に親しみを感じてもらい、鉄道技術を核とした産業観光の拠点を形成するといった流れとなっております。

2段落目は、ちょっと省略させていただきます。7日の日に永田町で自民党本部で開かれたプロジェクトチームの会合で基本計画を示したという内容です。

3項目目につきましてですが、このビジターセンターについては三階建てで、三階に展望スペース、そして車両所への連絡通路を設けるといった内容になってございます。23年の春の新幹線全線開業から1年後に完成するセンターの展望スペースは、すぐそばを走行する新幹線を眺めることができるというような状況です。

このほか、後段のほうですけれども、センターの建設にあわせまして、駐車場と屋外多目的広場も整備していくというところで、約1.3ヘクタールの見込みになるというところでございます。

そして白山市は、この広場等について新年度から実施設計に入っていったら、22年度内には

着工を目指していききたいといった流れというところで、昨日新聞報道あったというところでしたので、情報提供させていただきました。

次、2点目の情報提供でございますけれども、今回資料は用意はしてございませんでした。

口頭のみでの説明になりますけれども、北海道新幹線札幌延伸に関連しまして、並行在来線に関する情報提供をさせていただきますというふうに思っております。

北海道新幹線の札幌延伸は、現在令和12年度、2030年度末を完成開業を目指して準備が進められているところでございますが、北海道新幹線、新函館北斗・札幌間の開業に伴いまして、北海道旅客鉄道株式会社から経営分離される函館線、函館・小樽間の沿線の地域交通の確保に関して協議が必要となります。

このため、北海道では、函館市から小樽市までの沿線15市町とともに「北海道新幹線並行在来線対策協議会」を組織いたしまして、地域の交通の確保に関する検討を行っております。しかし、新幹線の建設工事の本格化、札幌延伸を見据えた交通体系の構築など具体的な検討をスタートする時期に来ているといたしまして、具体的な調査が必要となって参りました。

令和2年度に、経営分離後の具体的な方策を検討するための具体的な調査といたしまして、函館線の函館・小樽間の利用者数、利用目的、乗降駅等を調査するほか、第三セクター鉄道及びバス転換における需要予測・収支予測調査など収支見通し等を調査してまいります。

調査は、北海道新幹線並行在来線対策協議会、会長は北海道知事となっておりますが、調査が実施しまして、調査費用は3,500万円となっております。

費用につきましては、北海道と市町が2分の1ずつ負担することとし、各市町間の負担割合は、均等割、キロ、線路のキロの割合、そして町の財政力指数、人口割の指標によって負担することとなっております。七飯町の負担割合は7.54%となり、132万円を負担金として予算計上することとしておりますことをご理解いた

できますようよろしくお願いいたします。

以上、簡単ではございますが、2点情報提供というところでございます。

よろしくお願いいたします。

**○田村委員長** はい。ありがとうございます。今、2点ほど情報提供ということで、まず白山の関係と、2点目は新幹線が走った場合の並行在来線のどうやっていくのかに向けての一つの調査に入りますと。それに向けての負担金というそういう話なのですけれども、それらの今の情報提供について、質問あれば受けたいと思いますけれど。

(「なし」と呼ぶ者あり)

**○田村委員長** もしなければ。

(「ありません」と呼ぶ者あり)

**○田村委員長** どうもありがとうございます。

それでは、今日の日程全て終了いたしました。次回の開催については、これから調整、委員長、副委員長、そして事務局で調整し、また改めてご連絡したいというふうに思いますので、それではよろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

**○田村委員長** 他に何か、もしなければ本日はこの程度で閉会したいと思います。

どうもご苦勞様でした。

午後2時32分 閉会

